

現況分析における顕著な変化に ついての説明書

研 究

平成 2 2 年 6 月

山梨大学

目 次

1. 教育人間科学部・教育学研究科	1
2. 医学部	2
4. 医学工学総合研究部	5

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育／研究)

法人名 山梨大学

学部・研究科等名 教育人間科学部・教育学研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目1 研究活動の状況

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 研究活動の状況

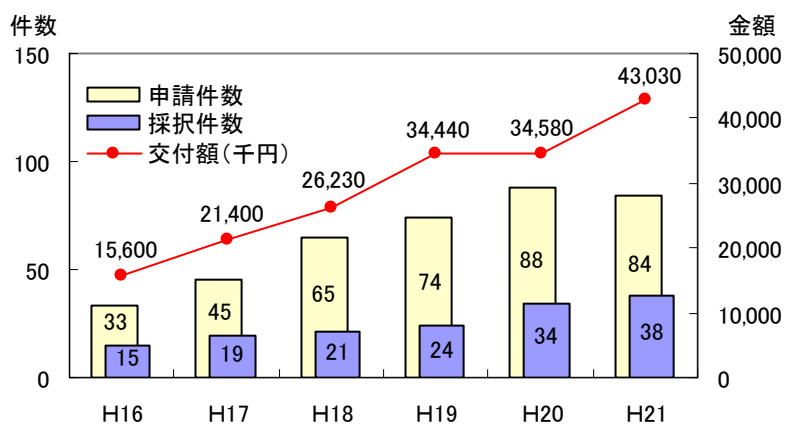
本学では、運営費交付金の削減に対処し、自己収入を確保するため、①学長メッセージによる科学研究費補助金申請の呼びかけ、②外部研究資金獲得に対するインセンティブ付与制度の実施、③教員の個人評価実施と結果による顕彰制度の実施、④科学研究費補助金の申請手続き等に関する説明会の開催などの制度面での支援を行いつつ、科学研究費補助金については、事前に申請予定件数を調査するとともに申請状況や獲得状況を学部別に分析・公表するなどして、外部研究資金の獲得を積極的に推進した。

また、学部においても教授会の席上で、科学研究費補助金の説明会への参加と積極的な申請を呼びかけた。

その結果、資料1のとおり、本学部の科学研究費補助金申請件数（新規・継続の合計）は平成20年度が88件、平成21年度が84件と顕著な伸びを示し、これに伴って、採択件数及び交付額も平成21年度にはそれぞれ38件、43,030千円と平成19年度と比較しても大幅に増加している。

これは、教員数110名の人文社会系・教員養成系の学部としては、期待される水準を上回る数値であると考ええる。

資料1 科学研究費の申請・採択状況



(出典:産学官連携・研究推進部資料)

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育／研究)

法人名 山梨大学

学部・研究科等名 医学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目1 研究活動の状況

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

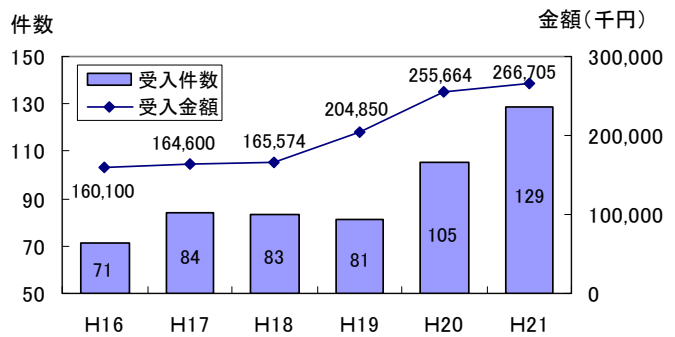
○顕著な変化のあった観点名 研究活動の状況

全学的な取組として、学長メッセージにより科学研究費補助金申請を呼びかけ、外部研究資金獲得に対するインセンティブ付与制度を実施し、教員の個人評価を反映した優秀教員奨励制度の中に研究特別奨励賞を設け研究費を特別配分した。また、科学研究費補助金の申請手続き等に関する説明会の開催のほか、本学部においても全教員に対して学部長等から外部研究資金への積極的な申請を呼びかけた。

こうした取組の成果として、本学部の科学研究費補助金の採択件数及び交付額は、資料1のとおり平成20年度が105件(255,664千円)、平成21年度が129件(266,705千円)と平成19年度までと比べて大きく増加している。特に採択件数については、平成19年度までは約80件であったものが、平成21年度には129件まで顕著に増加している。

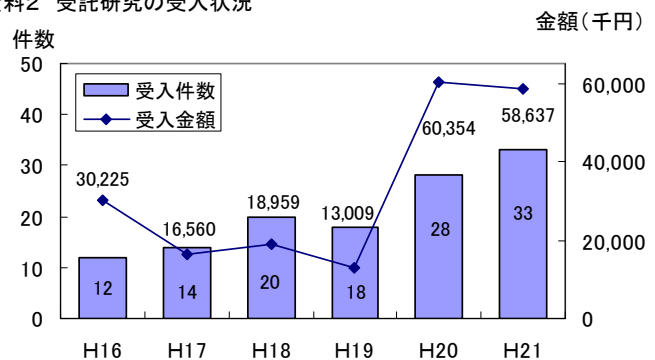
また、受託研究の受入れについても平成20年度が28件(60,354千円)、平成21年度が33件(58,637千円)と大幅に増加している。なかでも、学内戦略的研究プロジェクトの融合研究として支援した課題が、平成20年度文部科学省科学技術試験研究委託事業脳科学研究戦略推進プログラム(課題名「大脳聴覚の野直接電流刺激法による聴覚BMIの開発」佐藤悠)に採用されたことは取組の成果であると考えられる。

資料1 科学研究費補助金の受入状況



(出典:産学官連携・研究推進部資料)

資料2 受託研究の受入状況



(出典:産学官連携・研究推進部資料)

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育／研究)

法人名 山梨大学 学部・研究科等名 医学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目2 研究成果の状況

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 研究成果の状況

医学部における研究成果の状況を示す指標として、平成 20～21 年度に発表された研究論文についてインパクトファクターの数値による分類を行った（資料2）。

その結果、平成 18～19 年度と平成 20～21 年度の比較においては、インパクトファクター 0～5 未満の論文は 1.29 倍、5 以上の論文は 1.22 倍と増加傾向を示しており、インパクトファクター付きの学術誌への論文掲載数そのものも 356 編から 453 編と、1.27 倍の増加を示した。

これらの結果は、平成 20 年度以降の医学部における研究成果に対する評価と研究成果の水準の向上を示すものであり、高く評価できる。

資料2 医学部研究論文とインパクトファクターの関係			
インパクトファクター数値	H18-19(A)	H20-21(B)	B/A
0～ 5未満	273編	352編	1.29
5以上	83編	101編	1.22
全体	356編	453編	1.27

(出典:医学部総務課資料)

また、医学部にて獲得された大型研究費による研究件数の平成 20～21 年度における状況について示す（資料3）。大型研究費獲得の増加、特に現在の厳しい経済状況下での大型共同研究・受託研究の件数増加は、平成 20 年度以降の医学部における研究力の向上と研究成果の社会的有用性についての評価の高さを示すものであり、前記研究成果の水準の向上を別の角度から裏付けるものとしてここに挙げる。

資料3 科学研究費補助金、共同研究、受託研究における大型研究の実施状況						
	科学研究費補助金		共同研究		受託研究	
	H18-19	H20-21	H18-19	H20-21	H18-19	H20-21
300万円以上	23件	27件	2件	4件	3件	8件
500万円以上	11件	13件	1件	3件	0件	5件

(出典:医学部総務課資料)

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育／研究)

法人名 山梨大学

学部・研究科等名 医学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

質の向上度の事例1 外部資金の獲得状況

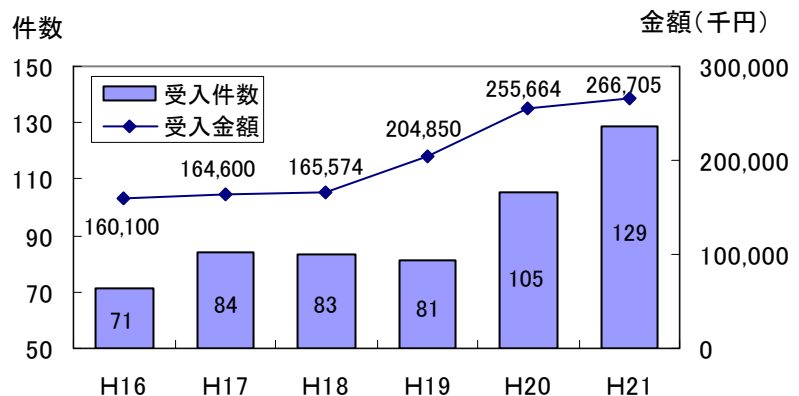
2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

本学部の科学研究費補助金の採択件数及び交付額は、平成 20 年度が 105 件（255,664 千円）、平成 21 年度が 129 件（266,705 千円）と平成 19 年度までと比べて大きく増加した（資料 1（再掲））。

特に採択件数については、平成 19 年度までは約 80 件であったものが、平成 21 年度には 129 件まで顕著に増加している。

これは、全学的な取組である、学長メッセージによる科学研究費補助金申請の呼びかけ、外部研究資金獲得に対するインセンティブ付与制度の実施、教員の個人評価実施と結果による顕彰制度の実施、科学研究費補助金の申請手続き等に関する説明会の開催のほか、本学部においても全教員に対して学部長等から外部研究資金への積極的な申請の呼びかけを行った結果として、活発な研究活動が行われたことを裏付けるものであると考える。

資料1 科学研究費補助金の受入状況



(出典: 産学官連携・研究推進部資料)

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育／**研究**)

法人名 山梨大学

学部・研究科等名 医学工学総合研究部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

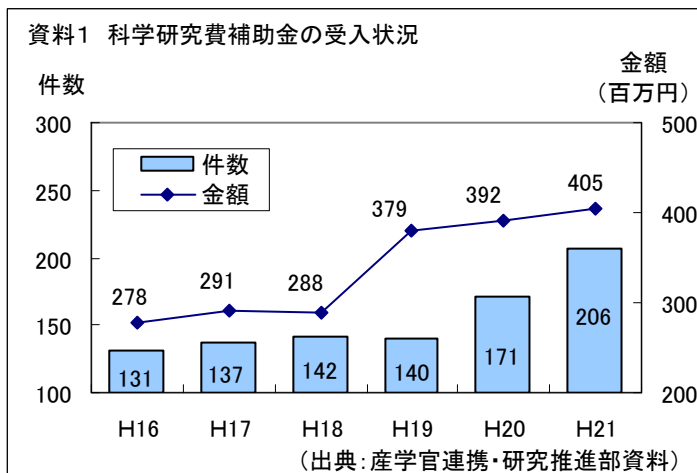
分析項目1 研究活動の状況

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 研究活動の状況

本研究部における科学研究費補助金の受入件数及び受入金額が、資料1のとおり平成20年度以降に大幅に増加した。

この増加は、運営費交付金の削減に対応するため全学的な方針として取り組んできた外部資金獲得に向けた取組（学長メッセージによる呼びかけ、教員の個人評価制度の導入、外部資金獲得額に応じたインセンティブ付与制度の導入、科学研究費の申請手続き等に関する説明会の開催）のほか、本研究部において先輩研究者がアドバイザーとなり研究実施計画や申請書の記載について若手研究者に対して指導等を行った結果であると考えられる。



現況分析における顕著な変化についての説明書(教育／**研究**)

法人名 山梨大学

学部・研究科等名 医学工学総合研究部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

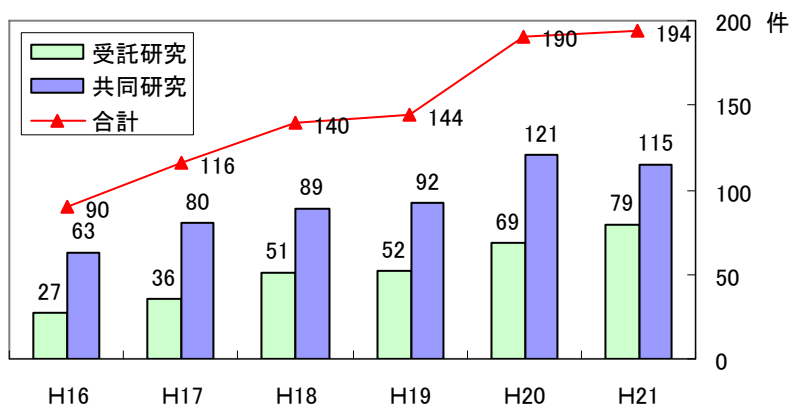
質の向上度の事例2 共同研究と受託研究の総数

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

本研究部における共同研究と受託研究の受入件数が、資料2のとおり平成20年度以降に大きく増加した。

これは、運営費交付金の削減に対応するため全学的な方針として取り組んできた、学長メッセージによる呼びかけ、教員の個人評価制度の導入、外部資金獲得額に応じたインセンティブ付与制度の導入など外部資金獲得に向けた取組の成果であると考えられる。

資料2 受託研究、共同研究の受入状況



(出展:産学官連携・研究推進部資料)